

令和4年度 特別展示のご案内

千葉市美術館所蔵 **新版画** 進化系UKIYO-Eの美

会期：令和4年(2022)4月23日(土)～6月19日(日)

前期：4月23日(土)～5月22日(日)

後期：5月24日(火)～6月19日(日)

新版画は、江戸時代に隆盛した浮世絵版画の技と美意識を継承すべく、版元・渡邊庄三郎(1885-1962)のアイデアをもとに、大正から昭和初期にかけてつくられた木版画です。伝統的な木版技術を用いながら、画家たちの近代的な感性によって表現された数々の優品は、制作当初からアメリカを中心に海外でも高く評価され、人気を博しました。本展は千葉市美術館が所蔵する新版画のコレクションから約190点を厳選し、草創期に活躍した橋口五葉や伊東深水、川瀬巴水、吉田博、昭和期の小早川清に至るまで、新版画の歴史を代表作によってご紹介いたします。

吉田博《帆船 瀬戸内海集》大正15年(1926)



蒐集家 浦上敏朗の眼 浮世絵・やきもの名品展

会期：令和4年(2022)9月10日(土)～11月13日(日)

前期：9月10日(土)から10月10日(日)まで

後期：10月12日(火)から11月13日(日)まで

当館は、萩市出身の実業家であった浦上敏朗氏(1926-2020)が、40年近くにわたって蒐集された浮世絵と東洋古陶磁を核としたコレクション(浮世絵1,868点、中国陶磁器237点、朝鮮陶磁器86点、近現代版画や中国青銅器など43点ほか、図書資料多数)を、平成5年(1993)に山口県に一括して寄贈されたことを契機として開館しました。その後、浦上氏は当館名誉館長として、毎年美術品の寄贈を続けられて、コレクションの充実を図られるなど、当館活動の発展に大いなる貢献を果たされました。

本展覧会は、令和2年(2020)8月15日に逝去された浦上氏の三回忌という節目の年にあたって、その遺徳を偲んで開催するものです。浦上コレクションを中心とした当館が誇る数々の名品の紹介を通じて、浦上敏朗氏の功績を顕彰します。

浮世絵

歌麿、写楽、北斎、広重、国芳などの人気絵師をはじめ、選りすぐりの作品を紹介します。

浦上氏が情熱を注いで蒐集したコレクションを通じて、浮世絵版画の豊かな創造性や版表現をお楽しみください。

やきもの

浦上コレクションのやきものは、主に中国陶磁と朝鮮陶磁からなる東洋の古陶磁です。今回の展示では、唐三彩や古染付などの中国陶磁、また高麗青磁、朝鮮青花などの朝鮮陶磁を中心に、浦上氏の眼を通して蒐められた珠玉の逸品の数々を紹介します。



藍三彩宝相華文三足盤
唐時代・8世紀



青花月兔文栗鼠角扁壺
朝鮮時代・18～19世紀

葛飾北斎《風流無くてなぐせ 遠眼鏡》
大判錦絵 享和期(1801～1804)頃

日本工芸会陶芸部会50周年記念展 未来へつなぐ陶芸 —伝統工芸のチカラ展

会期：令和4年(2022)7月2日(土)～8月28日(日)

我が国が誇る工芸技術「陶芸」は、時代とともに技法や表現が多様化し、現代まで著しく進化を遂げてきました。とりわけ昭和戦後期以降には、陶芸家の創作活動が活発化し、意欲的な作品が次々と発表されています。1950年、陶芸をはじめ、さまざまな分野の工芸技術の保存と活用を目的に、文化財保護法が施行され、その5年後の文化財保護法改定を機に、日本工芸会が発足しました。日本工芸会は重要無形文化財保持者(いわゆる人間国宝)を中心に、各分野の伝統工芸作家、技術者らで組織され、「日本伝統工芸展」を中心に作品を発表。そして1973年には、同会陶芸部所属の作家による「第1回新作陶芸展(陶芸部会展)」が開催され、現在に至っています。本展は日本工芸会陶芸部会50周年を記念した展覧会であり、同会で活躍した作家の秀作とともに、その活動の歴史を振り返るものです。歴代の人間国宝作品をはじめ、窯業地ならではの素材と伝統を受け継いだ作家らによる作品、茶の湯のうつわなど、伝統工芸の技と美をご紹介します。さらに未来を担う若手作家らの作品も見どころのひとつといえるでしょう。現代陶芸の今に焦点を当てた本展では、陶芸部会所属作家を中心に、さらにそれ以外の陶芸家の作品を含め、名品約140点を展覧いたします。

三輪壽雪(十一代三輪休雪)《白萩手桶花入》1965年 撮影：宮野正喜氏

